

韓国における学校・地域連携カリキュラムの動向 ——洪東中学校のマウル教育課程を事例に——

Trends in School-Community Collaboration Curriculum in Korea: A Case Study of Hongdong Middle School's Maul Educational Curriculum

肥後 耕生

Kosei Higo

はじめに

新学習指導要領では、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性などの涵養、実際の社会で生きて働く知識や技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力などの育成が目指すべき資質・能力として整理されている。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と地域が共有し、地域と連携・協働しながら、これからの社会を創り出していくために必要な資質・能力を育むために「社会に開かれた教育課程」の実現が示された。学びの目標を学校だけでなく社会全体で共有すること、地域社会とつながりながら学ぶこと、学びの場を学校だけでなく地域社会に広げていくこと、社会の変化に対応する力を身につけていくことなどが目指されている。このような社会に開かれた教育課程の視点をふまえ、学校と地域が連携・協働しながら教育活動に取り組む「学校・地域連携カリキュラム」を充実させていくことが求められている。

学校・地域連携カリキュラムを充実させていくためには、学校と地域が互いに当事者意識をもち、教育ビジョンを共有しながら、共通の目標に向かって取り組まなければならない。また、行事や一過性のカリキュラムに終止するのではなく、教員が入れ替わっても持続可能な取り組みとなる仕組みづくりが必要となる。そこで、学校と地域が連携・協働しながら教育活動に取り組む韓国の事例に着目し、学校・地域連携カリキュラムの充実化に向けた示唆を得たい。

韓国においては、地域社会と連携した教育課程の多様化及び特性化に取り組むために、自律的な学校経営と教育課程の運営、教育主体による自発性と献身、民主的な協力文化を形成することにより、公教育の充実を図りながら学校改革に取り組む「革新学校」の導入、学校と地域社会が積極的

に意思疎通を図りながら協力するマウル（まち、ムラを意味し、地縁性や社会的共同性を含む概念）教育共同体の構築や一般行政と教育行政の協力を通して地域全体の教育的支援システムを再構築することを目指す「革新教育地区事業」が取り組まれている。そこで本稿では、全国で展開する革新教育地区事業のひとつであり、忠清南道（チュンチョンナムド）教育庁及び洪城（ホンソン）郡で取り組む「幸福教育地区」事業について概観した上で、洪城郡洪東（ホンドン）面に位置し、地域の教育に関連する協同組合や機関及び団体とともに活動する洪東中学校のマウル教育課程を事例に取り上げ、学校と地域の連携カリキュラムがどのように取り組まれているのか考察する。

忠清南道教育庁「幸福教育地区」事業における教育エコシステム

革新教育地区事業

忠清南道教育庁「幸福教育地区」事業は、全国で展開している革新教育地区事業のひとつである。革新教育地区事業は、2011年の京畿道を最初に、全国226自治体のうち201自治体で導入されている（2022年3月現在）。地域ごとに事業名の違いは見られるが、学校と地域社会が積極的に意思疎通を図りながら協力する地域教育共同体を構築するために、教育庁と基礎自治体が協約を結んで共同事業を推進している。すなわち、革新教育地区事業は、一般行政と教育行政の協力を通じて地域全体の教育的支援システムを再構築することを基本としている。革新教育地区事業の目的は「①地方自治体との教育協力システムの構築、②地域社会を基盤とするマウル教育共同体づくり、③地域社会と連携した教育課程の多様化・特性化、④公教育革新を通じた地域住民の公教育に対する信頼感の向上」¹⁾といった4点が挙げられる。これらを通じて、地域社会が相互に協力し合い、意思疎通を図りながら、地域住民の教育への参加を促していくことが目指されているのである。

忠清南道教育庁「幸福教育地区」事業

忠清南道では「幸福教育地区」という名称で2016年から取り組み、現在、忠清南道内15の市郡で事業を推進している。忠清南道「幸福教育地区」事業とは、「地域社会の持続可能な発展のために、地域住民と学校が協力し、マウル教育共同体づくりと学校教育の革新を推進する地域として、各市郡の条例に基づいて忠清南道教育監と自治体長が業務協約を結び、共同予算による共同事業を推進する市郡地域単位のマウル教育共同体事業」²⁾のことを指す。ここで言うマウル教育共同体とは、学校とマウルが子どもたちを共に育て、マウルが子どもたちと地域住民の学びの場となるように学校とマウル、忠清南道教育庁と忠清南道及び市郡、さらには、保護者と地域社会が協力して連帯する教育エコシステムのことである。教育エコシステムとは、忠清南道教育庁「忠南マウル教育共同体活性化支援に関する条例」第2条によると「家庭、学校、地域社会など多様な教育主体との間に形成される躍動的で相互依存的な関係を通じて、社会が求めるコアスキル（社会的感性能力、民主市民力量、問題解決能力）を涵養するための学習ネットワーク」のことを指す。

忠清南道「幸福教育地区」事業では、次のような目標と推進課題を設定している。一つ目は、地域基盤革新未来教育の拡散である。推進課題としては、マウル教育課程の運営拡大、マウル基盤未

来学校の具現化、地域社会の学校教育への参加である。二つ目は、マウル中心教育活動の活性化である。推進課題としては、マウル学校運営の内実化、教育福祉セーフティネット構築、マウル教育課程の支援である。三つ目は、マウル教育エコシステムづくりである。推進課題としては、教育ガバナンスの構築、住民教育自治の拡散、共同体文化の拡散である。これらを推進していくために、推進体制（マウル教育共同体支援条例の制定、マウル教育共同体支援センターの設置）や協力体制の構築（地域教育ガバナンスの構築、民官学教育協議体の運営）、推進主体の養成（マウル活動家とマウル教師の確保、マウル教育共同体の成長支援）を推進戦略としている。マウル教師とは「学校とマウルが協力するマウル教育共同体のために、地域とともにある子どもたちの教育活動に参加する責任感と専門性を備えた地域社会の人的資源」³⁾のことを指す。

また、マウル教育共同体の運営原理（核心的価値）として、「共同体性」（自発性、ボランティアにより共同体に寄与する）「持続可能性」（条例をもとに推進し、地域再生の好循環を図る）「自治性」（地域住民の自律的で主導的な企画と運営を図る）「連帯性」（学校、マウル、官庁間の相互尊重による疎通と連帯を図る）「地域性」（マウル資源を活用した地域特性の反映）「民主性」（自律と平等、相互尊重による民主主義の追求）の6点を挙げている⁴⁾。学校、マウル、教育庁、自治体が相互に連携協力し合いながら、これらの価値を追求していくのである。



図1 忠清南道マウル教育共同体体系図

資料：忠清南道教育庁. (2023). 2023忠南マウル教育共同体（幸福教育地区）活性化支援計画 p.12.

忠清南道洪城郡「幸福教育地区」事業

洪城郡は、忠清南道の中西部に位置しており、道庁所在地として広域行政機関や団体が密集している地域である。人口は97,228人、世帯数47,169世帯（2023年9月現在、外国人除く）であり、3邑8面（邑・面は日本の町・村にあたり、郡の下に置かれる下部行政単位）の行政区域から成り立つ

ている。学校現況としては、幼稚園22園、小学校21校、中学校11校、高校10校が設置されている。

洪城郡では、2018年から「幸福教育地区」事業の指定を受け、2021年に「マウル教育共同体活性化支援条例」を制定して教育エコシステムづくりに取り組んでいる。洪城郡では「マウル教育共同体活性化支援条例」第2条において「地域社会と学校を中心とするすべての教育の主体が互いにつながる地域の関係網の中で、相互作用により学びが生じ、暮らしとつながる学びを通じて、個人の成長のみならず、共同体がともに進化する有機的かつ好循環な体制」のことを教育エコシステムとして定義づけている。洪城郡の「幸福教育地区」事業の予算を見ると、2018年から2022年まで24億9,460万ウォン（約2億7,263万円）投入され、予算の内訳としては、郡が70.5%、道教育庁が24.7%、教育支援庁が4.8%を占めている⁵⁾。現在、第二期目の事業を推進している。

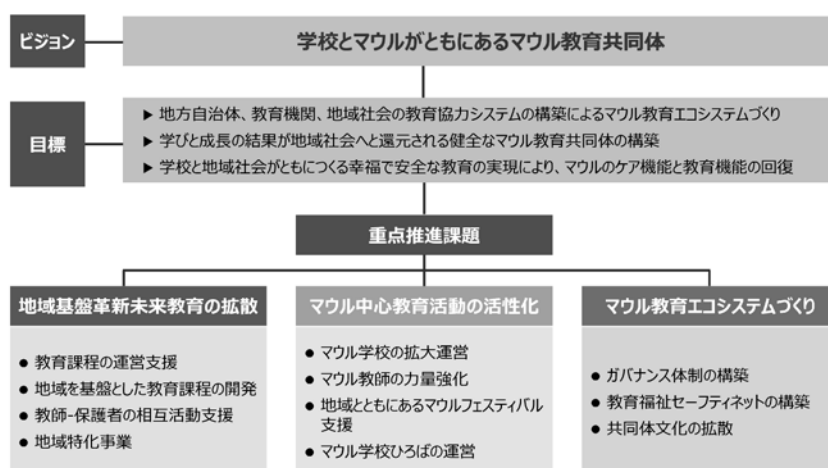


図2 洪城郡「幸福教育地区」事業の運営ビジョンと戦略

資料：忠清南道議会. (2023). マウル教育生態系造成による邑面単位政策協力強化方案研究 p.52及び忠清南道洪城教育支援庁・洪城郡. (2020). 学校とマウルがともにある洪城 2020幸福教育地区計画書 p.3をもとに筆者再構成。

洪城郡における「幸福教育地区」事業は、図2で示すように、ビジョンとして「学校とマウルがともにあるマウル教育共同体」を設定し、また推進目標として次の3点を掲げている。1つ目に、地方自治体、教育機関、地域社会の教育協力システムの構築によるマウル教育エコシステムづくりである。2つ目に、学びと成長の結果が地域社会へと還元される健全なマウル教育共同体の構築である。3つ目に、学校と地域社会がともに作る幸福で安全な教育の実現により、マウルのケア機能と教育機能の回復である。さらに、重点推進課題として次の3点を設定している。1つ目は、地域基盤革新未来教育の拡散である。教育課程の運営支援、地域を基盤とした教育課程の開発、教師と保護者の相互の活動支援、地域特化事業などの推進である。2つ目は、マウル中心教育活動の活性化である。マウル学校の拡大運営、マウル教師の力量強化、地域とともにあるマウルフェスティバルやマウル学校ひろばなどの運営・支援である。3つ目は、マウル教育エコシステムづくりである。ガバナンス

体制の構築、教育福祉セーフティネットの構築、共同体文化の拡散である。

以上のように、「幸福教育地区」事業をはじめとする革新教育地区事業では、①地方自治体との教育協力システムの構築、②地域社会を基盤とするマウル教育共同体づくり、③地域社会と連携した教育課程の多様化・特性化、④公教育革新を通じた地域住民の公教育に対する信頼感の向上などを実現させていくのである。特に、地域社会を基盤としたマウル教育共同体づくりにおいては、地域社会が相互に協力し、意思疎通を図りながら、地域住民の教育への参加を促していくことを目指しているのである。

洪東中学校におけるマウル教育課程

洪東中学校における学校改革

洪城郡洪東面に位置する洪東中学校の事例を取り上げる。洪東面の人口は3,392人、世帯数1,735世帯（2023年9月現在）、65歳以上が41.7%を占め、全国平均に比べ高齢化率が高い地域である。帰農・帰村1番地、教育・有機農業・協同組合の中心地とも呼ばれている。洪東面には、小学校2校、中学校1校、高校1校が設置されている。

洪東中学校は、生徒数112名、教職員数31名で構成されている（2023年9月現在）。洪東中学校では、2007年から学校革新（改革）に取り組んでおり、現在、学校革新4.0として推進中である。学校革新の発展過程及び内容については、表1で示すとおりである。

表1 洪東中学校学校革新の発展過程

段階	年度	革新推進内容
学校革新 1.0	2007 ～ 2014	農村学校持続可能なモデル校づくり 公募制校長第1期 - ‘新たな学校づくり’ 実践 マウルとともにある教育活動の推進 進路・生態・人間性特性化教育課程の実現
学校革新 2.0	2015 ～ 2018	忠清南道革新学校‘幸福分かち合い学校’運営 民主的・専門的学校共同体の樹立 生徒自治活動の強化 保護者の学習サークルと教育との連結
学校革新 3.0	2019 ～ 2022	公募制校長第2期と忠清南道革新学校(再指定)運営 民主的自治学校計画策定と実践 マウル・生態・民主市民教育へと特性化教育課程の再構成 生徒の学び中心教育課程の運営
学校革新 4.0	2023 ～ 2026	公募制校長第3期と忠清南道革新学校(再指定)運営 学校自治体系化 マウル・生態・民主市民教育特性化教育課程の研究及び記録 学びが楽しい全村学校のビジョン策定及び実践

資料：洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」p.8.

特色ある教育活動ーマウル教育課程

洪東中学校では、正規の教育課程における特色ある教育活動として、マウル教育課程が位置づけ

られている。このマウル教育課程では「マウル進路教育」「力量教育」「生命平和教育」「民主市民教育」という領域を設定し、それらをもとに、1学年では「共に暮らすマウル」、2学年では「生態と人間」、3学年では「生活の中の民主市民」といったカリキュラムを位置づけている。

洪東中学校のマウル教育課程は、2007年以降の新たな学校づくり実践の蓄積を踏まえ、マウルで多様な実践に取り組む機関、団体、マウル教師と共にカリキュラムを作成し、活動を展開している。例えば、1学年の進路「共に暮らすマウル」では、地域センターマウル広報グループ「マシリ」と共に行い、2学年の生命・平和教育「生態と人間」では、陽光学び場マウル教育社会的協同組合の支援のもと、マウルの生態教育専門家と共にカリキュラムを構成し、授業に取り組んでいる。また、3学年の民主市民教育「生活の中の民主市民」では、マウル教師で構成された民主市民教育研究会とともに運営している。

マウル教育課程の編成において中心的な役割を果たしているのが陽光学び場マウル教育社会的協同組合である。同組合は、地域内の学校と機関団体及び地域住民との協力を促進するマウル教育活動を通じて、地域住民と子どもたちが相互に学び成長しながら、持続可能なマウル教育共同体をつくっていくことを目的に設立された。放課後プログラム、洪城郡幸福教育地区マウル学校事業、洪東中学校放課後及び特性化教科課程委託事業、マウル教師のネットワーク構築、教師や教育活動家のためのマウル教育力量強化事業などを担っている。

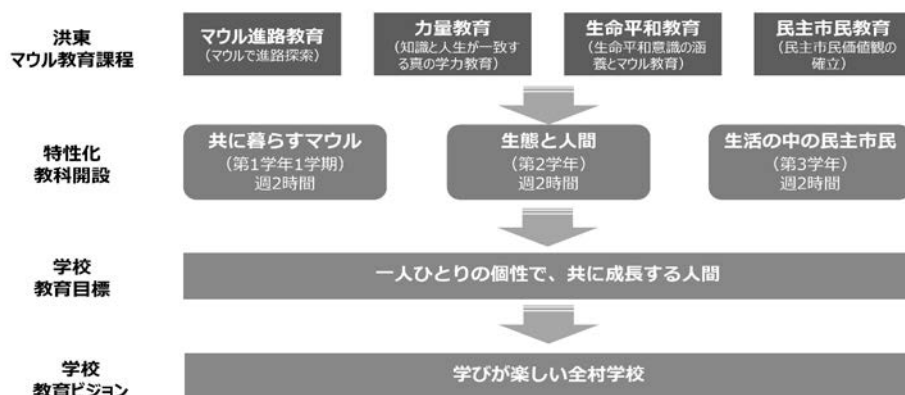


図3 2023年度洪東中学校マウル教育課程の構造図

資料：洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」 p.12.

1学年のマウル教育課程「共に暮らすマウル」では、表2で示すように「①自分たちの生活空間を理解し、マウルについて幅広く理解すること、②マウルの人々の人生や生活を理解し、それを基に自身の未来の進路探索と設計の機会をもつこと」⁶⁾を目的に、マウルで多様な実践に取り組んでいる機関や団体、マウル教師から学べる機会を設けている。

表2 1学年「共に暮らすマウル」教育活動計画

学期	月	週	時間	大領域	小領域
1 学期	4	2	2	I. 私達の学校とマウル	オリエンテーション、マウル紹介、マウル通信
		3		II. 私達のマウルの農業	洪東で生まれ、育った農夫たちの農業ストーリー
		4	4		農業に関する新たな形態の農場と関連団体での体験
	5	1	4	III. 私達のマウルの協同組合	マウル協同組合活動体験
		3			マウル協同組合活動体験
		4		IV. 私達のマウルの学び場	全村学校（カッコール木工室、夢が育つ庭）
		5	6		全村学校（陽光学び場、バルマク図書館）
		6			全村学校（議員）
	6	3			
		4	2	V. マウル学校発表会	アンケート/評価/活動映像/グループ活動発表会
	計		18		

資料：洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」p.13.

2学年のマウル教育課程「生態と人間」では、表3で示すような授業テーマや内容を通じて「①生命・平和意識の涵養と持続可能な暮らしを学ぶ、②人間と自然が共存できる方法を体得する、③気候危機問題の統合的解決に必要な問題解決力と意思決定力を身につける」⁷⁾ことを目的としている。全国で最初に有機農業特区の指定を受けた洪東地域の生態観察を通じて、生命や平和意識の涵養と持続可能な暮らしについて学ぶ機会を設けている。

表3 2学年「生態と人間」教育活動計画

学期	月	授業テーマ	授業内容	
1 学期 (18時間)	4	エネルギーと気候危機	学校菜園-春野菜の植え付け	
			気候危機をどうするか	
	5		エネルギーと滴定技術	
			有機栽培米のおはなし-米粉パン現場体験	
	6	菜園野菜料理-葉大根キムチ		
		生物多様性と水	生物多様性たんぼ生態調査	
			私たちの地域の水のおはなし（洪東川水質調査）	
2 学期 (18時間)	7	生物多様性と水	私たちの地域の水のおはなし	
			菜園野菜料理-旬のじゃがいも料理	
	8		生態的に暮らす	学校菜園-秋野菜の植え付け
				ゴミ問題とゼロ・ウェイスト
		倫理的消費のおはなし		
		学校菜園-天然石鹸とたわしづくり		
		生活用品のなかの毒性のおはなし		
10	地球環境と生態的暮らし	毒性のおはなし（自然派化粧品づくり）		
		菜園野菜料理-キムチの漬け込み		
		工場式畜産と地球環境		
11		学校菜園-冬の菜園整理、もち米でつくった餅		

資料：洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」p.14.

3学年のマウル教育課程「生活の中の民主市民」では、表4で示すような授業テーマや内容を通じて「社会の二極化や集団間の葛藤など、社会問題が増加する現実において、自由民主国家の真正な市民として生きるために、他人の言葉に耳を傾け、互いに配慮し、権利と義務を果たす市民とし

での基本的な価値観と姿勢を備え、自己肯定及び他人を尊重することを通じた民主的意思疎通能力の涵養により、葛藤を乗り越えるスキルを育てる」⁸⁾ ことを目的としている。

表4 3 学年「生活の中の民主市民」教育活動計画

学期	月	授業テーマ	授業内容
1 学期	4	I. 私とあなたの自由	民主市民教育をなぜ行うのか？
			からだほぐし+関係づくり
	5	II. 民主と共和の出会い	自分について探求し、肯定する
			友達を観察して新たな発見をする
			教育の現実の中で新たな教室を想像する
	6	III. ともに生きる暮らし	教育現実の解決策探し
			異なることへの理解
	7		自分の潜在能力を引き出す
2 学期	8	IV. 差別の無い世の中	互いの価値観を応援する
	9	V. ともに生きるための経済	憲法の条項と価値観をつなぐゲーム
			私はいかなる経済活動ができるだろうか？
			貨幣の歴史の理解と遊び
	10	VI. 環境、私達の未来	経済ユンノリ
			生態系の復元・気候環境ボードゲーム
	11	VII. 労働と暮らしの価値	環境を守るための小さな実践活動
			ジェンダーと私
	12	VIII. 持続可能な国家	人生シュミレーション
			社会課題の意識・表現と協業-社会課題を見つける

資料：洪東中学校, (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」 p.15.

洪東中学校では、マウルで学びマウルに寄与するマウル教育共同体づくりを目指し、表5に示すように、年間を通じてマウルの機関、団体、マウル教師と共に多様な活動に取り組んでいる。それらの活動は「①地域社会の人的・物的資源を活用しながら学校教育力を強化すること、②マウルの特性を反映した教育課程の運営により、地域の価値を創造すること、③学校とマウルが相互協力しながら支援する教育共同体を構築する」⁹⁾ ことを目的としている。特に、地域社会の人的・物的資源を活用した多様な教育活動の推進やマウルの価値を反映した教育課程の運営、また、学校がもつ教育的諸条件を活用して、地域社会（マウル住民）にとっての教育文化センターとしての役割を果たしていくことを使命とし、「協同」を重視する洪東マウルの価値を大切にしながら教育活動に取り組んでいることがうかがえる。

表5 学校・地域連携カリキュラム

活動名	推進内容	時期
認識共有及び拡散	教師研修	研修日
	生徒への教育、学校長による特講	教科、朝礼
	保護者及び地域社会	保護者会
持続可能発展 農村体験	1学年‘共に暮らすマウル’（週2時間）授業支援	毎週月5-6校時
	全校生田植え	6.8
	地域の農産物利用による教育農場体験	学期ごとに1回
生態環境 探求体験	地域生態環境調査及び保存活動	随時
	生態学習院労作活動	年中
	2学年‘生態と人間’（隔週2時間）授業支援	毎週木1-4校時
文化の多様性探求体験	郷土文化踏査：ブルム信用組合による支援	5.24
	文化芸術サークル及び放課後学校運営	年中
学校資源の活用	地域住民の健康増進活動への支援 地域の文化芸術公演活動への支援 地域社会への教育的協力のための保護者アカデミー 生徒の文化芸術活動の成果を才能寄付	年中
持続可能なマウルのための 連携活動	‘陽光学び場マウル教育社会的協同組合’との共同教育課程の運営-放課後学校10プログラム運営 小中高を含めた30余りの機関が参加 地域の持続可能発展現況探求	年中
マウル教育共同体と ともにある学習	民主市民教育のための学習会 3学年‘生活の中の民主市民’（隔週2時間）授業支援 中学校生態教育のためのマウル教師学習会 平和な共同体のための非暴力対話の会	年中

資料：洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書「学びが楽しい全村学校」 p.75.

おわりに

本稿は、忠清南道教育庁及び洪城郡で取り組んでいる「幸福教育地区」事業と、洪東中学校のマウル教育課程を事例に取り上げて、学校と地域の連携カリキュラムがどのように取り組まれているのか概観した。

「幸福教育地区」事業では、学校とマウルが子どもたちを共に育て、マウル全体が子どもたちと地域住民の学びの場となるように、学校とマウル、教育行政と一般行政、保護者と地域社会が協力しながら連帯する教育エコシステムの構築、すなわち、多様な教育主体との間で相互依存的な関係を形成し、社会が求めるスキルを涵養するための学習ネットワークを構築することが目指されている。

一方、洪東中学校では、2007年から取り組んできた学校改革、新たな学校づくり実践の蓄積をもとに、特色ある教育活動として「マウル教育課程」が位置づけられている。自分たちが暮らす生活を学び、地域の多様な構成員と共に持続可能な暮らしや地域共同体を夢見る暮らしを実現するために、有機農業が盛んな洪東地域の特性に合った生態教育の必要性、さらには、人間性の涵養と正しい価値観の形成のために体系的な人間性教育の必要性に着目し、進路、学力、生命・平和、人間性をテーマにした教育カリキュラムを編成してきた。このようなカリキュラムも時代や社会の状況に合わせ、2023年度からは、マウル進路、生命平和、民主市民をテーマとしたカリキュラムへと変化している。洪東中学校のマウル教育課程は、陽光学び場マウル教育社会的協同組合をはじめとする

マウルで多様な実践に取り組む機関や団体、マウル教師が学校の正規カリキュラム開発に関与し、マウル教育課程における教育活動に共に取り組んでいることが特徴として捉えられる。教育エコシステムが構築され、地域社会の構成員が相互に関わり、マウルがもつ人的・物的資源を活用しながらマウルの特性や価値を反映した教育カリキュラムを開発・運営していくことによって、学校の教職員が入れ替わっても持続性のある取り組みとなる可能性があるだろう。このように、学校と地域が互いに当事者意識をもち、共通の目標に向かって、持続可能な取り組みとなるように学校と地域が連携・協働する姿は、新学習指導要領で目指される学校・地域連携カリキュラムの充実化において、示唆を与えてくれる。

これから、洪東地域における教育エコシステムがどのように構築されていくのか、また、洪東中学校のマウル教育課程がどのように具現化していくのか、今後の検証課題としたい。

引用文献

- 1) 梁 炳賛. (2022). 未来教育地区事業と地域均衡発展. NABIS ニュースレター63号カバーストーリー. 2022.10.13. 国家均衡発展総合情報システム (NABIS) ブログ <<https://blog.naver.com/redis12/222898356278>> (2023年8月25日15時25分)
- 2) 忠清南道教育庁. (2023). 2023忠南マウル教育共同体(幸福教育地区)活性化支援計画 (p.13). <<https://happyedu.cne.go.kr/home/page/total/pageview.do>> (2023年9月16日10時33分)
- 3) 同上 (p.13).
- 4) 同上 (p.12).
- 5) 忠清南道議会. (2023). マウル教育生態系造成を通した邑面単位政策協力強化方案研究 (p.60). <https://council.chungnam.go.kr/kr/serviceBBSview.do?uid=6C7EDE7EBC283ED69DC4D835F31EFD17&schwr=&flag=all&chk=&page=2&list_style=&cmt_cd_sch=> (2023年10月7日17時22分)
- 6) 洪東中学校. (2023). 2023年度学校教育課程運営計画書学びが楽しい全村学校 (p.13).
- 7) 同上 (p.14).
- 8) 同上 (p.15).
- 9) 同上 (p.75).

付 記

本研究は、JSPS 科学研究費補助金 (科研費) JP22K02333 による研究成果の一部である。